◎議案第１号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君）日程第３、議案第１号　平成 28 年度松崎町一般会計補正予算（第５号）についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君）　議案第１号は、平成 28 年度松崎町一般会計補正予算（第５号）についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（総務課長　山本秀樹君　提案理由説明）

○議長（稲葉昭宏君）　以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○２番（渡辺文彦君）　まず最初に、この購入の件に関することですから購入の経緯、登記等についてとりあえずお伺いしたいと思います。

そもそもこの購入に関しては、旧依田家が温泉ホテルとして活用している時に、負債をもって維持できないということで町の購入を働きかけたことがあると思います。経過があると思いますけれども、その当時において町としては、とっても受けられるものではないと拒否してきたわけでありますね。それにも関わらず今回あえてこの物件を買いたいとするその理由を説明していただきたいと思います。

○企画観光課長（山本　公君）　ただいまご質問のありました関係です。大沢温泉ホテルの経営悪化により維持していくことが困難になり、競売により２つのＮＰＯ団体が平成 27 年９月に落札をしたということについてはご承知いただけるかなと思います。

それ以前に町の方にお話があったわけですけれども、億を超えるような金額のお話もあったと伺っておりますけれども、そういうことを経て、ＮＰＯ法人が共同で落札をして管理運営をしていたわけでありますけれども、なかなか維持管理が非常に大変であるというような中で、町の方に昨年の６月だったですかね。購入について町の方で何とかお願いできないかという要望がございました。

その中で、種々検討していく中で、大沢温泉ホテル、旧依田邸の建物が県の指定有形文化財、母屋ですとか、離れですとか、あるいは蔵ですね。道具蔵、米蔵、そういうものが文化財にも登録されていたり、あるいは北海道の開拓の依田勉三さんとの関係のある非常に縁の深い建物

であるということの中、そういう歴史的なものあるいは建物的な形というようなこと、あるいは下流に道の駅花の三聖苑がございまして、そちらの方が重点道の駅の指定をされています。あるいは内陸フロンティアの推進地域となっておりまして、そこの整備を考えていかなければならないという中で、一般質問の中でもいろいろ町長の方からご答弁をさせていただいた経過がありますけれども、その中で依田邸、三聖苑あるいは警察の方が整備されております旧中川小学校一帯を拠点ということの中で整備をしていく方がいいだろうという考えの中で、今回、金額的な問題も当然ありますけれども、購入をさせていただくということになりまして、今回予算については提案をさせていただいたということでございます。

○２番（渡辺文彦君）　購入経費、この辺は今後詰めていかなくちゃならない問題だとは思うんですけれども、一般的に、普通これが民間との取引で買ってくれ、買ってくれという話であれば当然値段交渉があるわけですけれども、普通売買において相手側の言い値で買うというのは、よっぽどそれに対する正当な根拠がないと受け入れられない話だと思うんだけれども、この5000万円を判断する基準は何だったのか、5000万円というか・・、4800万円ですね、全体で。その理由を教えていただきたい。

普通ならば値切るとかというのは変な言い方ですけれども、相手の言い値そのもので受け入れるということは普通、一般、小ビジネスにおいては考えられないと思うわけだけれども、町の取引においてはそれがなぜ成り立つのか、その辺の説明を伺いたいです。

○企画観光課長（山本　公君）　金額の問題につきましては、議会全員協議会においてもご説明をさせていただきました。ＮＰＯ法人においても金額の開きがあるというようなお話をささせていただきましたし、土地の家屋評価、資産の台帳評価でいきましても4500万円というような数字が出ております。そういう中で判断をさせていただきまして決定をさせていただいたわけでございます。

落札した金額は3200万円というようなことだったわけですけれども、当然それ以降の維持、手続きに係る経費等々を勘案した中、あるいは先ほど申しました土地家屋償却資産台帳の評価額が4500万円とあったわけですので、そのあたりを参考に購入価格を決定させていただきました。両団体間の開きは調整させていただきまして、最終的に3840万円ということになっております。個人の方については、温泉の源泉ですとか、あるいは鉱泉地、土地のものですとか、あるいは総務課長から先ほどありましたけれども、建物内に残置される動産一切ということの中で、それも購入額に・・、維持した経費、ですから、トントンでと言うんですかね。儲けをそんなに・・、かかった経費だけということの中で金額を提示いただきまして、その中で今回4870

という数字を出させていただいているところでございます。

○２番（渡辺文彦君）　仮にこれの補正が成立したとして、すると当然町はそれに伴って事業計画を考えているわけだけれども、その辺の今後の計画がぼくらに見えないとこの金額で買うのが妥当かどうかの判断ができないと思うわけだけれども、その計画をなるたけ詳しく説明していただきたい。

○企画観光課長（山本　公君）　全員協議会の中でもちょっとお話をさせていただきましたが、先ほども申しましたけれども、県の文化財に指定されている建物が５棟残っているという歴史的な価値が当然ございます。それらを活用した・・、それを見ていただくとか、資料を展示してお見せすという形のもの、あるいは温泉の施設がありますので、ご承知のとおり三聖苑の源泉が５～６年に１度閉塞してというか、詰まりましてなかなか利用ができなくなるということがありますので、日帰り入浴施設としての可能性あるいは木工塾ですか、依田邸でやっていますけれども、そういう部分のもの、見ていただいたりとか、体験していただいたりというような考えがあります。あと、簡単な喫茶ですとか、お土産ものですとか、そういったものが考えられているわけですけれども、現在地方創生の加速化交付金の中でなまこ壁の調査、主なものだけをピックアップして調査あるいは活用についてを今年度事業で調査活用について検討しているところでございまして、そちらもまた参考にさせていただきます。

また、併せて 29 年度の予算の中で道の駅パーク基本構想策定業務というものを予算措置してありますので、その中でより具体的なものについては関係する皆様とも協議した中で打ち合せをさせていただきたいと考えております。

ただいまの段階で何をやって、いくらで入場料を取ってとか、入浴料をいくら取ってという詳細のものはまだできていないわけでございますけれども、いずれにいたしましてもあそこは歴史的な建物ですとか、そういうものを保存していくこと、プラス賑わいの生める施設ということで整備をしてまいりたいと考えているところであります。

○町長（齋藤文彦君）　松崎町はひとづくり、ものづくりで町をおこしてきたわけで、私は、伊豆学の方から依田邸の話があった時には、あそこを本当に松崎町のものづくり、ひとづくりの原点にしたいと、地方創生の本家本元にしたいと思っているわけでございます。

今、課長の方から話があったわけですけれども、地方創生加速化交付金を使って、美の漆喰文化を育むまちづくり事業ということで、重要な建物をいま調査していますけれども、その調査結果が出まして、やっぱりここはちゃんとして保存する。直すところ、壊すところいろいろ出てくると思うんですけれども、そのようなことを加味しながら、重点道の駅は、あそこは本

当は重点道の駅としてスタートしたのではなくて、途中から道の駅になったようなところがありますから、本当の重点道の駅にするために内陸フロンティアの計画もありまして、道の駅パーク構想というのが来年度の予算にも載っていますけれども、そこを含めて、依田邸と含めて、あそこを松崎地方創生の本拠地にしていきたいなと思っています。

いま、新聞等でいろいろ伊豆番匠木工塾が始動というような話があったわけですけれども、昨日、私も行ってみて、皆さんが働いているところを見て、あの三聖苑のところを本当にそういう働く人たちが何と言うんですかね・・、やれる作業場とか、またあそこは無農薬の農業等もできると思うので、その農作物を使った作業所みたいなものができれば、あそこは本当に松崎の活性化に役立つのではないかなと思っていまして、私は、これを本当に松崎の地方創生の本拠地にしたいなと思って、買うのが松崎町にとって一番最適ではないかなと思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかにありませんか。

○１番（伴　高志君）　全員協議会でこの概要はお話を聞いて、それで、この・・、改めてこの予算の中で出てきたわけですけれども、ここで財政調整基金ということで入っていますけれども、この予算の使い方というか、考え方というか・・、今、課長の話があったので、この国や県の観光施設に対する補助金を取り入れながらということもあるんですけれども、この購入にあたって財政調整基金を繰入れた経過をちょっとご説明していただけますでしょうか。

○総務課長（山本秀樹君）　まず、土地の購入、町の財産を生み出すとか、そういうものに対しての補助金というのはありません。やっぱり自分の財産は自分たちで生みなさいというようなことになるわけです。

今年度の予算の中で、過去の議会でも説明をしていますけれども、前年度の繰越金等の余裕財源につきましては、12 月までに計上するということになっていまして、全ての余裕財源も全て 12 月に基金等に繰入れてあります。いま現在、基金を使わなければ、新たな追加には対応できないというような状況になります。

そういう中で、財政調整基金を使って購入の財源に充てるということでございます。これ以外に、基金もおろさずに対応できるというのは、財源がないということから基金を取り崩して対応するということでございます。

○１番（伴　高志君）　そうしますと、今後はそういった形での繰り入れというのはないものと考えて構わないでしょうか。財政調整基金に関して事業を・・、依田邸の事業を進めていくにあたって・・。

○総務課長（山本秀樹君）　今回はあくまでも土地の購入費についての財源の措置になります。今後新たな年度になって、いろんな計画の中で、どこどこにこういう施設を造ろう、どこどこにこういう施設を造ろうとか、こういうものを改修しようとかというところについては、できるだけ国県の補助金であるとか、そういう・・、できるだけ町の財源は使わないで、そういう補助制度を利用した整備を心がけていきます。それはなかなか町の財政も大変だからということで、そういうようないろんな補助事業等を探しながら対応をしていきます。

ただ、そのほかの一般財源、補助金であっても２分の１とか、３分の１という形になりますので、それ以外の財源については一般財源、自分の懐から出さなければならないということになります。その場合は、繰越財源であるとか、税収であるとか、そういうもの、それから補助金等をプラスして、不足した部分については、この財政調整基金等を使って予算を編成していくということになりますので、ある意味そういう事業の元となる一般財源分については財政調整基金が充てられる場合も可能性はあるということでご理解いただきたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかにありませんか。

○１番（伴　高志君）　例えば、今回、建物と温泉も含めて購入するということですけれども、この温泉の利用というのは、まだそこまで具体的にはなっていないかもしれないんですけれども、町がどこまで関わって計画していくのか。やっぱり施設全体を使うようなコストだとどのくらいのコストがかかるかとか、そういうのはわかりますか。

○企画観光課長（山本　公君）　全体的な事業計画というものについては、先ほども申し上げましたが、来年度の基本計画の中で立てていくということで、いま考えております。

先ほども申しましたが、三聖苑のかじかの湯がなかなか５～６年に一遍止まってしまうみたいな状況がございますので、そのあたりは日帰り入浴というような施設ということで検討は十分にされるということでは考えております。

湧出量についても三聖苑なんかの３倍なり４倍なりの量が出ているということでございますので、それらを十分に活用していくというようなことでございます。

いずれにしても文化的な建物だけでなくてですね、そのほかのものも使いながら、中川地区、あの地区一帯を賑わいをつくっていくというようなことで計画を立てていきたいと考えています。

経費の関係はちょっと出ていないわけですけれども、道の駅花の三聖苑が年間 5000 万円位の経費がかかっています。そのあたりも参考になるのかなと・・、それは当然収入もありますので、差引でということに最終的にはなりますけれども、そのような状況でございます。整備を

する内容によってもかかる部分が変わってくる可能性もありますけれども、いずれにしましても負担にならないような形の中での整備を考えていかなければならないなと・・。

事業を進めるにあたっても、先ほど総務課長からもありましたけれども、国県の補助金を活用して町の負担が少ないような形の中で整備をさせていただきたいなと考えております。

○町長（齋藤文彦君）　全員協議会の中で言いましたけれども、やっぱり私は、地方創生の総本山にしたいと言っているわけですから、やっぱりまだ松崎町のものではありませんので、松崎町のものになってからやっぱり松崎町はこういうことを考えているよと町民の皆さんに見えるような形で重点道の駅、依田邸、その周辺はこういうような形になるよというようなものを皆さんの目に見えるような形で見せたいなと思っているところです。

○３番（長嶋精一君）　私は、議員になる前にこの大沢温泉ホテルについての任意売却について町と折衝した経緯がございます。その時の任意売却の価格というのは、１億円を超えていた価格でした。そこで、このような価格になったということは、経緯を、町長のこの前の全員協議会で話をいたしましたけれども、このような形で着地はしていないんだけれども、着地しそうな・・、とういうことは、私には理解ができます。こういう方法でしかできなかったんじゃないかと私は思います。

そこで、私の言いたいことは、この動産、この関連する動産、不動産を含めて権利関係が全て問題なく、後で問題が発生するようなことがなく全て権利関係が町に移るということを念には念を入れて専門の弁護士あるいは業者としっかりとポイントポイントをチェックしながら進めていただきたいなと思います。

それから、もう一つ、大沢温泉ホテルのかつての関連の人間から聞いたんですけれども、源泉・・、取得する・・、取得予定の源泉の温度は低いです。40 ちょっとですね。40 何度かな・・。これは、秋、特に冬場は常に加熱しなければいけない状態だったと聞いております。これにかかる灯油代というのはばかにできない。月 50 万円以上がかかっているということですね。それ以上の維持費・・、維持していくためには相当のお金がかかるということであります。

したがって、その費用をカバーするべくやはり計画をしっかり立てていかなくちゃいけないと私は思います。それに対して、道の駅と関連をもった形で町長はやっていきたいと言いましたけれども、道の駅とそれからこの旧依田邸、関連して今までのように決まりきった人のメンバーで協議をするんじゃなくて、もっと異分子というか、いろんな考え方をもった人、特に民間企業の人たちを入れて、やっていって欲しいと私は思います。そうでないと、今までの人、要するに町のいうことを素直に聞くような人ばっかりだと絶対に成功しない。このように私は

強く思います。

町長、ぜひそれだけはお願いします。一言お願いします。町長の考え方・・。

○町長（齋藤文彦君）　松崎町は、静岡銀行、三信さんとかもいろいろ地方創生の連携を組んでいるわけですから、そのような人たちに入ってもらって民間の力を入れていきたいなと思っています。

それで、今、温泉がぬるいというようなことがありましたけれども、私は、伊豆番匠木工塾が動き出したということは非常にうれしいことで、やっぱり今海と山は恋人、川は仲人といいますけれども、川が氾濫するにしろなんにしろやっぱり整備しなければいかんということで、伊豆の木工を使ってやるのがいいと・・、それで、今いろいろ話をしているわけですけれども、ストーブですね。ストーブを使って依田邸も温めながら温泉も温めるような形になればいいかなというようなことを僕自身は考えていまして、ちょっとここで私の夢を語らせてもらうと、このあれを手に入れた場合ですけれども、依田さんが昔あのホテルをやっていた時に、馬車で松崎の駅から大沢温泉ホテルまでお客さんを送り迎えしたいというような話がございまして、非常に感動したことを覚えているわけですけれども。いま松崎町には人力車があるわけですけれども、いま使ってないわけですけれども、あの三聖苑とか依田邸のところに人力車で裏側を通ってお客さんを三聖苑の方から依田邸の方に送り迎えするようなことになれば、ものすごく注目を浴びるし、非常におもしろいことになるのではないかなと・・、これは、私だけの考えですけれども、だんだん進んできたら、そういうことになればいいなと私は夢を抱いているわけでございます。

○３番（長嶋精一君）　その地方創生に入っているメンバーとしての金融機関、それは非常にいいと思います。それと、私がいたからじゃなくて、いいと思います。それと同時に大沢温泉ホテルに関わった人たち、特に大沢地区の人たち、これらの人は非常に思い入れが強いわけですよ。ですから、そこら辺の人をゆくゆく、真剣に話をしてくれる人を特にメンバーに入れて、前向きな形でやっていただきたいなと思います。

今までの・・、とにかく言いたいことは、今までの決まりきった人たちだけではだめです。思い入れの強い人、それと実行力のある人、観念ばかりじゃだめでね、具体的に利益を上げるにはどうしたらいいかということを考えられる人、そういう人をぜひお願いしたいと思います、町長。

○町長（齋藤文彦君）　長嶋議員に言われたから答えますけれども、私はやっぱり区長会でもやっぱり中川の人たち、区長さんたちにも話をしますし、大沢温泉ホテルで働いていた女性陣が

いっぱいいますね。あそこへ伊豆学の皆さんのところへ行くと、本当に力いっぱい力添えをしてくれていますので、ああいう人たちの協力を得ないとなかなかうまくいかないところがあると思いますので、そういうところは自分の頭には入っていますので、そういう指示を出そうかなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかにありませんか。

○５番（藤井　要君）　この買うというようなことは、もう最初の・・、思い出しますと、もう３年、４年前に始まっているというようなことじゃなかったかなと思い出しますけれども。その中で町は、当時１億 4000 万円位の話だったと思いますけれども、その中で町長は二の足を踏んで、ずるずるずるずる来た中で伊豆学さんが今度は買ったというようなことになっているわけですけれども。当時、１億 4000 万円というと、私も買っても 5000 万円位だなと、出しても・・、安く買えれば 3000 万円位というようなことを・・、ちょっとそれは温泉も入っていた、全てですけれども。そういう中で町長がこの伊豆新聞とか、朝日とか、いろいろ静岡新聞なんかを見ても、いま町長がこれからのことに対していろいろ理想をもって町のひとづくり、まちづくりの原点ということで、これは確かにいいなと思っております。

ですから、それを振り返りまして、町長、その当時の心境と・・、最初の頃の心境、まあ、今さら言ってもしょうがないですけれども。それと、伊豆新聞さんを引用させてもらいますと、伊豆学さんが、これはあれですね。150 人位なんかメンバーがいるみたいですけれども、そういう中で橋本さんが代表ということで、これからの依田邸のことに対して今いろいろ発言されているんですけれども。その中で町長といろいろお話をしているというようなことですので、私はまた一般質問の方でもちょっと出させてもらっているんですけれども、これからどのようにやっていきたいのか、そのある程度中身があると思うんですよね、これの購入に関して・・。

そして、もう１点、あと、伊豆学さんが今の状態ではやっていけないよということで、１年間くらいやっているわけですけれども、だいたい経費がどのくらいかかっているのかなとか。そういうこともそれはお話の中で聞いていると思いますけれども、そこら辺はだいたいどのくらいかかっている・・、そうすると、それに対してこれからの運営に対してはもう最低限１年間やってもらった中で、これは、こんかいかかるということになれば、これ以上の相乗効果というか、橋本さんではできなかった部分、町が関与するということになれば、大きな期待も持てるわけですけれども。そんな点を・・、あまり詳しい数字は出ないわけですので、思っていることだけでもいいですので、こういうことをやっていけばいいんじゃないかということが少しでもあればお願いしたいと思いますけれども・・、町長。

○町長（齋藤文彦君）　昔のことはちょっといろいろあったから話したくないです。ここまできてよかったなと思っています。

それで、本当にこれを管理運営する・・、これからすぐ活動するところ、長年かけてできあがっていくところ、いろいろ計画があるわけですけれども、管理運営するには、これはものすごく金がかかるし時間がかかるし、非常に難しいことだと思います。

ただ、どのような形になるか、まだはっきりしませんので。だけど、橋本さんたちがあれだけ力を入れてやってくれたので、橋本さんたちがもしやるんだったら、ここをやってくださいと・・、あなたはここをやってくださいというような形になるかどうかよくわかりませんけれども、そのようなことをちゃんと煮詰めてやっていきたいなと思っています。

○企画観光課長（山本　公君）　経費については、詳細にはちょっと申し上げられませんけれども、当然今回の補正予算の中にも電気料だとかを盛ってあったりとか、警備保障の金額を盛ってあります。ＮＰＯの関係でいけば電気が７万円から８万円位の間が毎月かかっております。警備の関係が２万何某かかっていますので、警備とか電気だけで 10 万円かかっていると。また人件費、当然あそこを管理していただいている部分の人件費なんかも発生していますので、やはり 200～300 万円はかかっているということになります。

ですから、そういった部分の関係の費用も当然かかってきますので、今後どのようにあそこを整備、管理をしていくか、管理の方はどうしていくのかということも含めて計画の中でまたお示ししていきたいと考えております。

○５番（藤井　要君）　金額的には、そんなに細かく私もここでは予算を上げるか、上げないかということでやっていますので、そんなに深くは入りませんけれども、これからですね、橋本さんとの関係。先ほど言いました橋本さんのところに 150 人ほどのメンバーがいるというようなことの中で、私は、なかなか町単独で・・、今度買ったからといって運営できるものはない。そういうことになりますと、今やっている橋本さんちあたりに力を借りなければ運営できないということになるわけですけれども。その点に関しても若干新聞等では触れておりますのでね、運営、これからの運営をどうしていきたいのか、管理ですね。そういう点は、町長、頭の中に橋本さんあたりとも話をしている・・、先ほど町長、５分５分でというようなこともあるかもしれないけれども、どんなつもりで運営していきたいと思っているのか、もう少し詳しくお願いします。

○企画観光課長（山本　公君）　それは建物の整備内容にも当然関わってくる話かなと思っていますので、そのどこの部分を誰が運営する、団体が運営するかということについては、今後ま

た協議をしていかなければなりません。

これまでＮＰＯ両方が買っていただいて、これまで中川地区、依田邸、賑わいづくりを図っていただいていますので、その部分についてはまた引き続き連携をしてやらせていただきたいと思いますし、両ＮＰＯ法人の橋本先生の方もいろんな事業計画を立てて、あそこに賑わいをつくろうということでやってくれていますので、そういう部分については引き続き連携をさせていただいて、やっていくということでございます。

また、どなたが運営していくかという部分については、今後また協議の中で進めてまいりたいということです。

○５番（藤井　要君）　だいたいいろいろと私の方もお話なんかと聞いている中で、うまくやってくれるんじゃないかなと思っているところでございます。前の一般質問なんかでやりましたけれども、あそこが町の観光の核とかになってもらって相乗効果を出して、やっていければ一番いいと私は思っております。

そして、町は元気になると、観光が元気になるというようなことを願っているわけですけれども、町長、１点だけ、そういう覚悟があって、もうこれはもっとよくなるんだというような決意がありましたらお願いします。

○町長（齋藤文彦君）　これには本当にいま松崎の・・、人口減少しているわけですけれども、あそこで本当に若い衆を増やしていきたいなと・・、いろいろ松崎に行けばいろいろ面白いことをやっているから行こうじゃというようなことになればいいなと思っています。

また、もう一つは今、補助金を活用しなければいかんわけですけれども、県の方の人たちもいろいろ協力してくれていますので、そのような形で松崎の本当にお金を使わないで、少なくして、いろいろなお金を使ってやっていければいいかなと思っています。

また、帯広市とも本当にいま連携がよくやっていますので、本当に議員の皆さん方も研修旅行で帯広にでも行って、向こうの議会の皆さん方と松崎の情勢はこうなっているよというようなことをぜひ行って話し合っていただきたいなと思います。

私もある程度めどがついてきたら、米沢市長のところへ行って、今こういうようになっていますよというようなことを話してみたいなと思いますので。これは町だけでできることではありませんので、議会とやっぱり二輪車でいかないとなかなか力が出ないと思いますので、ぜひそのようなことを議員の皆さん方もお願いしたいなと思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

○２番（渡辺文彦君）　私は、今回この件に関して町民の方と何人かお話しして、意見を伺いま

した。多くの町民は、この件に関して否定的でした。おそらく町が管理運営するのは無理だろうと、やってもまた赤字の持ち出しになるだろうという見解がほとんどでした。

そこで、私が言いたいのは、今まで町は、町の企画をもっていろいろ業者に頼むなり、また町民に協力を仰ぐことでいろんな計画、運営をしてきた、事業もしてきたわけですけれども、それが結果的に大きな成果を出してなかったわけです。要は、町主導の事業では成果が出なかったということで、それで、この反省を踏まえて今回、町長は牛原山に関しては民間の力を活用したいということで事業を展開したはずです。

今回の方向性は、その方向性とは矛盾しているわけです、おそらく方向性としては。あえてここで牛原山でとったような方法を先にもってこないで、こういう町主導の事業計画を立て上げる必要があるのか、多くの町民がその辺の理解に苦しんでいます。その辺の説明をお願いいたします。

○総務課長（山本秀樹君）　予算を編成する際にその辺の議論、それから今回購入にあたってのその辺の議論はうちの方でも十分にさせてもらいました。

渡辺議員のご指摘のとおりなかなか町でやる事業というのは、やっぱり時の時流・・、時の流れもあります。うまくいく時とうまく行かない時があります。まつざき荘にしてもそうでした。

今回は、まず町として町の財産ともいえるあの建物はやっぱり保存していかなければならないというようなことから、あそこの維持とか保存は町でやっていこうと。ただ、今回そこをどういうふうに運営するかについては、先ほど来、話も出ていますけれども、民間の方々の意見も入れたりしながら、町としては維持保存、建物の保存はやるけれども、そこの運営とか事業経営については、やっぱりそこは民間の活力を利用したいというふうに考えております。全協の時にも話をしたと思いますけれども、テナントという言い方が合っているかどうかはわかりませんけれども、ある種それぞれの部分についての施設管理とか、運営については、その道のプロに任せた方がいいだろうと。それで、そこの利用料をいただきながら、そこで大いに活動して儲けてもらうような方法が一番いいのではないかというような下構想はあります。ただ、そこでじゃあ何をどういうふうにもってこようかというのは、どういうところにアプローチしようかとか、そういうものはうちそこにはある程度ありますけれども、まだ公表する段階ではないというような状況でございます。

いずれにしても、来年度パーク構想と合せて計画を作りますので、その計画の中であそこの施設運営を考えて実現化させていくということです。

最終的にあの施設だけの経理が黒字になるか、赤字になるかということではなくて、あそこを買ったということは、こういう交通の便の悪いところに、「ああいうところがあるの」「あそこにぜひ行ってみたい」という寄ってみたいと思わせるようなステータスのある、行く価値のある、そういう価値観の高いものを誘致したりとかですね、あそこの活性化が町全体の活性化になってお客さんの呼び水になって町全体が賑やかになるというような、一つそういうスパイスにしたいなというのが大きな野望といってはあれですけれども、そこの狙いになっているなっているわけですから、その辺を肝に銘じながら計画を作っていくということになります。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかにありませんか。

○町長（齋藤文彦君）　私はね。ケネディ大統領の有名な演説がありますけれども、町が町民のために何かするのではなくて、町民が町のために何ができるか考えてくれということでやっているわけですけれども。今回のことに関しては、あまり構想が多すぎますので、ある程度町でこのようなことを考えているよと、そして、町の皆さんにいろいろな意見をくださいというような形になるのが一番いいのではないかと思っているところです。

○議長（稲葉昭宏君）　渡辺君、最後にしてください。

○２番（渡辺文彦君）　その事業がどれだけになるかわからないというところが一番怖いわけですね。

ぼくは、ある程度先がみえている、このくらいかかってこのくらいの損失で終わるなとか、こんかいの利益が出るなというのがみえていれば話はしやすいんだけれど、どれだけ金がかかっていくかわからない、それに対する費用対効果がどれだけ生まれるのかもわからない。そういう計画がいま出されているわけですよね。それはそれで置いておいて、この件に関して私は橋本代表ともお話しました、伊豆学の。橋本代表は、町が購入してくれたら、後はぼくらにみんな任せてもらいたいんだという意向を示しておりました。もう全て町の方が管理しなくてもいいと、ぼくらが全部やりたいんだと・・。ぼくらが中心になってここを活用して大いに地方へ、全国へ発信して松崎に人を呼び込んでみせると、そういう強い意欲を、決意を語ってくれました。それに対して、町は、その辺の方向性に関してはちょっと難色を示しているという意見であったと思います。その辺は町と議論したという話をしていましたから、間違いないことだと思うんですけれども。先ほど総務課長は、店子という表現を・・、前も全員協議会でもしていたわけですけれども、店子を個別的に集めるとするとどこかに管理運営する主体が町の中になくちゃいけないわけですよね。その中でバランスを取りながら、収益を上げていくということをやらなければならないんだけど、それは非常に難しいビジネスだとぼくは思います。

だったら、あえて伊豆学がそれだけの決意があるならば、伊豆学一本にお願いします・・、もちろんチェック、干渉は当然必要になるわけですけれども、その中で運営していただく方がより機能的なのかなと。伊豆学は建物の補修もぼくらが自分でやって何とか維持していきますよと言っています。町が関わらなくても、維持補修に関しても関わらなくてもいい、ぼくらが全部いろいろな事業を展開しながら、その経費を生み出しながらやっていくと。ただ、町が5000万円だけ出してくれれば、あとは何もやってくれなくてもいいんだという言い方をしているわけですけれど、その辺に対してちょっとどういう見解をもっていますか。

○総務課長（山本秀樹君）　大変楽観的な考え方だと思います。まず、あそこの維持修繕を考えれば億単位の修繕というのが必要な箇所といえば出てくるわけです。実際の調査の中で、やるかやらないかというところもあるけれども、この辺までもやれば完璧ですよというところをやれば億単位の修繕費がかかります。そういうところを果たしてＮＰＯだけでできるのか、今やっているような中で果たしてあそこの全ての維持修繕ができるのか、町は5000万円だけ出せばいいのかということになれば、おそらくそんなことはないと思います。買えばいいだけということではなくて、その後の維持管理は、これはまた同じようにＮＰＯがもつかといえば、やっぱりもてないわけですから、それは町の管理をしていかなければならない。

うちの方とすれば、伊豆学の方にも当然あそこの文化的な催事とか利用とか保存とか、そういうものに対してはいろいろ協力はしてもらいます。またいろいろ利用もしてもらいたいと思っています。ただ、大きな流れの中でそういう文化財を公開して、楽しみに見に来てもらう、その見たあとに余韻を楽しんだりとか、お風呂に入ったりというところの管理については、当然修繕も必要になってきますので、その辺は大家として町はベースを揃えますよと。ただそこの運営については専門家にやってもらって、より多くの利益を上げてもらうというものが一番いいのではないかと・・。町の方に、例えば、このイベントで100人来たからという形で、それが年間の全体的な底上げになるかといえば、なかなかやっぱりそういうものをやっていても難しいと思います。やっぱりそこは、そういうイベントもやりながら、なおかつ常時行ってくつろげるスペースとか、そういうものがあることが必要であって、そこの管理運営は、やっぱり餅は餅屋でやってもらった方がいいと今のところは考えているということです。そこをどこにするか、どういう形でやるかというのは、来年度計画を作っていくということでございます。

○町長（齋藤文彦君）　私は、橋本さんと結構心の中からいろいろ話し合ったわけですけれども、それと渡辺文彦議員とちょっと若干のずれがあるのかなと思っています。

私は、伊豆学の本当のすごいネットワークを活用しなければと思っているわけですけれども、

そこのところは橋本さんたちと話し合えばわかることではないかなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君）　暫時休憩します。

（午前　９時５０分）

○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時００分）

○議長（稲葉昭宏君）　質疑を続けます。

○６番（福本栄一郎君）　２月７日の全員協議会の時にもお話したんですけれども、再度確認ということで、町長にちょっと考え方をお伺いしたいと思いますけれど。２月６日、これは町長もご覧になったと思いますけれども、伊豆新聞で、この見出しに・・、伊豆新聞の田方三島版で大沢温泉ホテル復活にという大きな見出しがあるわけです。これをちょっと・・、中をちょっと朗読しますと、伊豆学研究会の総会でこれから会員たちがホテルを運営できるよう計画を進めていくという記事です。それから、伊豆学研究会の橋本理事長は、現在松崎町がホテルを買い、うちが運営するという形なりを交渉中と話をしたということがありますけれど、これについて、町長の・・、まだ・・、先ほど町長が、まだうちのものではないと議員の質問に答えたんですけれども、その辺を再度、この伊豆新聞田方三島版のホテル運営ということについての町長の考え方をまず１点お伺いします。

それから、松崎町地域おこし協力隊募集要項も２月７日の全員協議会でやりまして、活動内容が初めて・・、今までだいたい棚田の保全、それから農作業、いわゆる休耕田の活用等々があったんですけれども、初めて木工業への従事支援、木工技術の習得というのが初めて出たんです。

町長がやりました美しい村連合の中で、松崎町が３点、石部の棚田、なまこ壁、桜の葉っぱという３つのテーマで美しい村連合に加盟して現在活動していますけれども、その中で、私が心配しているのは、大沢温泉ホテルは古さ・・、昔の伝統ある建物、それはイコール木工・・、木造建築と同時になまこ壁、瓦屋根、左官屋さんの分野、大工さんの分野ももちろんあります。この辺が、この地域おこし協力隊の中へと・・、左官屋さんの職人さんの養成、その考えがあるかどうかということです。現実を見ますと、だんだんいま職人さんたちがいない、いま松崎町の左官組合といっていますけれども、一番若い年齢がもう 60 歳近いと思うんです。

いま松崎幼稚園は岩科でやっていますけれども。なんか聞きますと、松崎町左官組合へとや

るところが、実際は１人の組合長さんですか、具体的に名前を言いますと、元消防団長をやった中村さんが１人でやるようになったということをちょっと聞いたんです。ですから、だんだん職人さんがいない。

我われも、東海地震の中でも約3000所帯ある中で、だいたい・・、統計はとっていませんけれども、７割８割が瓦屋根の家がみんな民家になるわけです。

（「関係あるのか」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　ちょっと待ってください。

○６番（福本栄一郎君）　だから、その辺をその中で、この古い建物をやった場合に維持修繕、なまこ壁の修復、左官・・、これは岩科重文もそうです。その辺の職人さんというんですか、地域おこし協力隊で・・、その辺の考え方があるかどうか、それを教えてくれませんか。

○町長（齋藤文彦君）　最初の質問ですけれども、まだそれは・・、まだ松崎のものではありませんので。総会で橋本さんが何を言ったか、新聞で読んで初めて知ったわけですけれども、松崎町のものになったら、やっぱり松崎町の考えはこうですよと。それで、橋本さんたちもこの時はこういうふうに協力していただけますかというようなことになると思います。

○企画観光課長（山本　公君）　地域おこし協力隊の話が出ているわけですけれども、なまこ壁についても当然考えていかなければならない問題で、いま現協力隊もそのあたりのなまこ壁の補修ですとか、そういう部分の関係については取り組んでおります。

ただ、常時仕事をつくらないとやっぱり１年間やっていけないというような問題もあるので、そのあたりも非常に重要な問題かなと思います。

ですから、左官屋さんの仕事だけでいけるのかどうなのかという部分も当然あるわけでございまして、町の方では、技術伝承事業とか、今回の幼稚園の外壁ですとか、そういった部分で出番を作って活躍していただいているわけですけれども、１人でやっているというようなお話がありましたが、それは違うと思います。何人かに声をかけて皆さんでその作業をやっているということで認識していますので、１人ではないかと思います。

木工の関係についても、山が荒れて放置されているという状況の中で、どういうふうにそれらを解消していくかということの中で、依田邸の方でもやっていますけれども、そういう木工の塾あるいは作品展ですとか。そういったものでそういうものを解消しながら、あるいは商売というんですか、商品化して売っていくとか、そういった活動としてやはり山のことも考えていかなければならないということがありまして、こういう協力隊も募集をさせていただくということになっております。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

（発言する者なし）

○議長（稲葉昭宏君）　質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思いますが、これに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

○２番（渡辺文彦君）　私は、本件の議案に対しては反対する表明であります。反対を表明します。本来、ぼくはこの件に関しては賛成して次の議会を待とうと考えていたわけですけれども、今の話の流れから考えると、やっぱり町の中には事業の提案も何もされていない。そんな中でこれからどれだけお金がかかるかわからないような状況で単に5000万円だからというお話では済まないもので、この件に関しては。これをこのまま認めていくと、あとちょっと後悔するのかなという気がします。そういう意味においてこの件に関しては、今回賛成の意向ではあったんですけれども、あえて反対する表明であります。

○議長（稲葉昭宏君）　次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○５番（藤井　要君）　私は賛成ということでやりますけれども、いろいろ町民の方が不安をもっているということはわかります。そういう中で、町の貴重な財産というか、依田邸から町の中のですね、今回もまた寄附なんかもありますけれども。そういうところとか、ぬりやさんとか、そういう貴重なですね、元請け人というかですね、そういうところは発信してきたあの依田邸をこのまま朽ちさせるわけにはいかないと思います。

しかし、やっぱり町民サイドに立った場合には、今の振興公社といったら悪いですけれども、いろいろの面で赤字続きだと、また赤字にするのかという意見もごもっともだと思います。しかしながら、何もやらないでこのまま衰退していく町にするわけにはいかないと思います。いろいろな面を考えて、皆さん町民これは一人ひとりの協力のもとで、議員も役場の職員も町もよくするんだという一つのそういう熱い気持ちを一つにしてやっていってもらいたい。そういう中の核にしてもらいたい。そして、最後の方で渡辺議員も心配しておりますけれども、赤字垂れ流しではない・・、そうした時には、またいろいろな方法をもって町長はやっていくという・・、今回ぜがひでも町をよくするためにやりたいというような決意があると思いますので、

それを信じて私は賛成いたします。

○議長（稲葉昭宏君）　これをもって討論を終了します。

これより議案第１号　平成28年度松崎町一般会計補正予算（第５号）についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手多数）

○議長（稲葉昭宏君）　挙手多数であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。